



RI 第 2 6 1 0 地区

## 東となみロータリークラブ会報

2012-2013 年度 No. 2 2

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 F A X 0763-53-1334、

[inashorc@athena.ocn.ne.jp](mailto:inashorc@athena.ocn.ne.jp)

2012-2013 年度 会長 河合耕一、幹事 上田昭二

2012-2013 年度 RI テーマ



「奉仕を通じて 平和を」

(田中作次会長)

## 例 会 記 録

### 第 1 6 4 8 回例会

平成 2 4 年 1 1 月 2 8 日(水) 井波文化センター

1. 点 鐘 会長
2. ソング：それでこそロータリー



3. 会長の時間：今日は穏やかなよい天気。11月に入ってお日様が出たのは6日間くらい。この時節から今年一杯の仕事は雪吊りだが苦労も多い。昨日、八乙女山の頂が雪で白くなった。福野からこの山を眺めると、昔から3回目の雪の白が降りると平地は降ると言われてきた。今はお腹一杯なので少し苦しい。そこで今日は「一杯」という同音異義語についてふれる。今年一杯とお腹一杯とは同音だが意味は違う。「一杯食べさせてもらった」や「一杯もらった」とは、たくさんの意味だが、「今年一杯」、「今月一杯」とは僅かしかないという逆の意味となる。日本人の知らない日本語なのか、一度本でも読ん

だことがある。「一杯食べさせられた」と、「一杯喰わされた」とは意味が違う。後者は騙された、ということ。「一杯」は不思議な言葉。「一杯だけ飲ましてくれ」と「一杯欲しい」は、違う意味。因みに話しているときの私立と市立は説明が要る。今年一杯、今期一杯とも頑張っていきたいので、この後もよろしくお願いします。

4. 幹事報告：①来週の例会は年次総会。②他クラブ例会変更は事務局に確認。③例会終了後、理事会です。
5. 委員会報告：①親睦活動委員会（長谷川総一郎委員長）：12月19日6：00より三楽園でクリスマス家族例会を行う。もう1人の委員は忌中故、私1人で計画したい。大人1人1000円程度の景品を持参されたい。当日、会場で集める。子どもはサンタクロースからプレゼントがもらえる。協賛品は歓迎します。当日これも、会場で頂きます。サンタクロース扮装は河合会長でよろしくお願いします。ご家族の方、子どもさん、お孫さんも含め、多くの参加を期待しています。②出席委員会：本日20名中15名出席（75.00%）
6. ニコニコBOX(SAA:本日4名4000円、月計35000円、年度累計223000円)

**河合会長**：井波文化センターに待望のエレベーターが設置されました。お祝いします。

**上田幹事**：久しぶりの晴天です。お東さん流では、親鸞聖人の命日です。南無阿弥陀仏。

**助田会員**：ちょっといい事がありました。

**中島会員**：先週インフルエンザの予防接種をしました  
が、今週に入り、インフル以外の風邪をひ  
きました。又、今年はノロウィルスが過去5  
年では1番の患者の広がりを見せています。  
お互いに気を付けましょう。



## 卓話「Change and Love Rotary について 思う事」 木村英典会員

**木村会員**：演題は今年の地区大会のテーマ。4年前、米  
オバマ大統領は初当選。今度再選。その時のキーワードが  
チェンジ、改革。これは、米国民の多くが今の政治を変え  
たいという願望の表れ。日本でも半世紀以上続いた政権に  
飽き飽きし、3年前に政権交代をした。今度の総選挙では  
どうなるか。現政権は危ないのでは。

R Cの中尾ガバナーも Think ,Change and Love  
Rotary を地区大会テーマとして掲げた。R Cを考えよ  
う、変えよう。ロータリーを好きになろうと。このテーマ  
のもと、先ずガバナー公式訪問があった。でも、これまで  
は66の地区内R Cを1軒々々全て回るという方法であ  
ったが、今度は「合同」例会という方式が採られた。これ  
は中尾ガバナーの発案ではない。中尾さんが初めて採られ  
たことは事実だが、これは、1996年当時R I会長ルイ  
ス・ビセンテ・ジアイさんが、「地区のリーダーシッププ  
ラン」（以下、プラン）という方式で採択されたことに始  
まり、R I理事会でこれが承認され、世界の地区に提唱さ  
れた。当時の地区ガバナーは松尾さん。このプランは即、  
地区で採用され、2002年には全世界でも義務付けられ  
採用された。このプランは、これまで地区内R Cを1軒々

回っていたのをやめて、簡略化というのは語弊があろうが、  
呉東では5つの少数R Cをまとめて公式訪問を実施する  
という方法が採られた。初めての試みで中尾さんにも異論  
があったろうが、地区内66のR Cを36回で終わられた  
ということがガバナー月信(Monthly Letter)にも書いて  
ある。

中尾ガバナーのチェンジの意味はこんな程度のことか  
と思った。東京には2750地区があり、93のR Cで会  
員数は4555人。うち66のR Cで2665人。東京  
はうちの倍近い、大きな地区。そのテリトリーは東京のみ  
ならず、グアム、サイパンまで。これを全部回るのはガバ  
ナーは大変。こんな地区にこそ、このプランを適応して仕  
方ないだろう。ガバナーの役目を低減する意味もあろう。  
今回、うちの66しかないR Cをいくつかまとめて公式  
訪問を実施されたのは、ルール違反では無いが、如何なも  
のかと思う。

世の中は格差の時代とも言われる。上は国と国との対立、  
国内は紛争などがある。医療格差、経済格差、教育格差、  
一票の格差など世の中は格差だらけ。格差は無くすること  
はできない。仕方のないもの。かつての政権の負の遺産と  
もいわれる。でも格差は縮小することはできる。でも近年  
のR Cのやり方を見ると、そんなことは一切お構い無し。  
大きなクラブはもっと大きくなりなさい、小さなクラブは  
消えても仕方無い、という考えが主流をなしている。グル  
ープ公式訪問というが、私は非公式訪問と言いたいが、こ  
れは格差の裏返しで差別ともなる。

私はその逆を言いたい。富山には7つの、高岡には4つ  
のR Cがある。そんな大きなクラブはまとめて公式訪問を  
する。うちのクラブを入れて、弱小のクラブは1軒々々訪  
問する。これなら賛成できる。

ガバナーの任務は会議の主宰やその決定事項の伝達な  
どがある。他に弱小クラブ、昔は瑕疵クラブと言っていた  
が、そうした小さなクラブはどうすればよいのか、昔は  
色々アドバイスがあった。そんな義務があったと言われて  
いた。だからガバナーは小さなクラブを1軒々々回って  
そのクラブの内容を知り、意見を聞いて懇切丁寧に回ると  
いうのが務めである。松尾ガバナーが受けてからはプラン  
があったが「合同」例会方式を採ってない。その後の歴代  
のガバナーもそれを実施していない。これまでは、1軒々

全て回って訪問していた。そんな訳で今回のやり方はおかしい。

ここに「ロータリー100周年を祝うー2610地区史」がある。この最高編集責任者はロータリーの神様とも言われた故人の四津谷仁朔さん。この方が本の中で、このプランはおかしいと、はっきり言っている。もう1つ、このプランで変わったことは、これまで「分区代理」という呼び名が「ガバナー補佐」に変わったことであった。「分区代理」は何の権限も責任も無く、ガバナーの私設機関のような宙に浮いたような存在であった。それが変更され、ガバナー補佐は権限もあり、責任もある役となった。小西勝さんはどの程度研修会を受けられたか知らないが、ガバナーの意向を伝えるという大きなお仕事がある。

過日、新聞コラム欄で Love・愛の反対語は何かと書いてあった。憎しみを連想しそうだが、無関心だということ。関心が無い、ということ。中尾ガバナーは、Love Rotary と叫んで居られるが、無関心になるな、ということ。関心を持って、ということ。Think はロータリーを考えよう、Change はロータリーを変えよう。これもキリが無いくらい変えなくてはならないことがある。皆さんの中には、何を今さら変えるのか、これでよいではないか、そう思っている方が大半と思う。本当に変えなくてはならないと思っ

ている方は1人か2人。そこまで考えなくてもロータリーを辞めていけばよいではないか。そんなことはどうでもよい。そんなことについてはロータリーを分かって入ったのだから、何もチェンジすることは無い。こうした方がたくさん居られるのではないか。これが無関心ということでないか。

変えることは山ほどある。ロータリーは、地区に始まり地区に終わる。先ず地区を変えないとどうにもならない。地区の弊害、多くの方はこんなもんだと思っている。これでよいではないかとも。地区はやりたい放題、お金が無ければ集める、好き放題で、何か規制が必要である。

ロータリーの最近の傾向は、30年も在籍して居ると、見えすぎるほど見えてくる。日本の経済団体には、日商、商工会、経団連、同友会、政経懇話会など多くがある。ロータリーがそれらと同じレールの上を走り始めた。この良し悪しは別問題だが、これがロータリーの近年の傾向だ。ロータリーは急がず一歩々々道を歩くもの。何もレールの

上に乗っかって何もしなくても目的地に着くものではない。効率は悪くても、大変だろうが、自分の足で歩いていくもの。最近では経済最優先の傾向がある。ロータリーよ、お前もか、の感がある。経済優先のロータリーは佻しい。せめてロータリーだけでも、中立を守り、個性的な存在であって欲しい。人間には2種類あると言われる。経済最優先と経済以外に大切なものがあるという2つの考え。ロータリーは後者を行くべきだ。もちろん経済は大切。われわれから経済を取ると何も残らない。だけど経済だけだと、あまりにもストレート過ぎる。ロータリーには無駄があっても良いではないか。

最近のロータリーを見て感じることもある。もともとロータリーとは個人的なもの、個人主義的なものであった。何故か言うと職業を通して社会に奉仕しようという精神であった。でも近年はクラブ交流などが盛ん。1人でやっても効率が悪いので集団でやりましょう、など。こうした効率性や経済性が重視されている。他のRCとのお付き合い、自分のクラブは犠牲になっても仕方がないという考え。こんな傾向がある。

ロータリーはお金と口は出すが、体は出さないと昔から言われている。Love Rotary という口では上手い。ライオンズは口の代わりに体を出す。最近はこの傾向がますます大きくなっている。ロータリーはあらゆる奉仕をお金で解決しようとする。お金さえ出せば何でもできる、奉仕にはお金がかかる。ライオンズは体を張って奉仕する。ライオンズには四献活動がある。献血、献眼、献腎、骨髄移植の4つ。ロータリーは体を出さない。お金さえ出せばよい。

(ライオンズとは) 随分違う。かつて皆さんに新聞を見せたことがある。ライオンズは週に3~4回、活動の記事が新聞に載る。ロータリーは週に1度あればよいほど。新聞に出ればよいということを言っている訳ではない。新聞は読者の要望や関心によって記事が選択され掲載される。うちのRCでは奉仕活動が実施されている。よい歯のキャンペーン、いい歯のキャンペーン、これは素晴らしい社会奉仕。どこへ出しても恥ずかしくない。地区内66のRCでこんな素晴らしい活動をやっているRCは無いだろう。日本中調べてもベスト5に入るのでは。自信を持ってこれを進めていくべきだ。こんな小さな、僅か20人のRC。山本先生の殆ど個人的なお力にも依りますが、これを支援し

ているうちの方針は捨てがたい。さらに過日の街をきれいにする奉仕などの環境美化や南砺の山々を守る奉仕の環境保全など大きな顔ができる活動であると思う。

ロータリーのチェンジは地区から変えることである。地区の組織を変えること。地区には30近い委員会があり、150名を超えるメンバーを張り付けている。これは整理統合か、廃止の方向へ行かねばならない。RIは地区に委員会を作れなどは、一言も言っていない。地区にはガバナーとそれを補佐の方が居ればそれでよい。5大奉仕委員会くらいは置いてもよい。それに「ロータリーを考える委員会」が新しく置かれたことはよい。これは来年になったらどうなるのか。1年で無くなると思う。地区には簡素化やスリム化が必要。

小さな政府とか大きな政府とかがよく言われるが、地区こそ「小さな政府」でありたい。今や地区は、われわれクラブを統括し、指導し、育成し、教育する、運営する、管理するというまるで地区のためにクラブがあるという思い上がり、錯覚が見られる。これはクラブ側も悪い。無関心が原因。そんなこと言わんと好きなこと、やらせればよいでは無いか、嫌なら辞めればよいではないか。先ずロータリーに関心を持って欲しい。地区は何のためにあるのか。われわれは地区のためにあるのではない。

RC新年度の幹事が決まると地区から送金カレンダーが送ってくる。あなたのクラブの人数はこれくらいだからこれだけのお金を送って欲しいと、詳細に書かれてある。今や時の人となった橋下大阪市長は、知事時代に中央から回ってきた地方への分担金請求書はボッタクリバー並みであったという。地区会からRCに送ってくる請求書も同様のものであった。RCの会費も高すぎる。今の会員の方に言っているのではない。これから入会される方、若い方は入会しにくい。年間30万円近くのRC個人出費は歓迎されない。私もかつてはRCへの勧誘を試みたが、最後に会費の高さを理由に断念される。RCの将来のために言っている。会費はいくらが妥当金額なのか。私は、1万円札、1枚。1回の飲み代並み。RCに無駄が多い。どんな組織でも予算書があるのだが、これがRCには無い。事業や活動が優先される。必要なお金は会員から集める、という考えである。

地区の諮問委員会はロータリーのガン。ロータリーの悪

さの7割は地区の責任。後の3割は個別のRC。先ほど言った無関心さ。そんなこと言わなくてもよいではないか、諮問委員会は解散して下さいと言いたい。代わりに各RCの代表者からなる委員会をつくり、これを選挙で選ぶ。中国の共産党の指導者選びのようなRCの役員選びは時代に合わない。各RCの代表者が集まって地区会の重要事項を決定する。そのような決定機関をつくる。ロータリーは何故ダメになったのか。単年度事業性制を採択していることである。役職も1年務めれば、あとは問題無しという考え。RI会長に始まり地区ガバナー、各RC会長に至るまで変わらない。うちのような小さなRCは、いずれ皆に会長が廻ってくる。各RC会長にとっては、1年は何事もなく終わればよいと考えがち。これがロータリーをダメにしている。と言ってガバナーに2年やってくれとは酷かも。何かよい案があればよいが。地区人事も選挙制を導入すべきだ。ローテーションの原則は各RC内だけとしたい。弱小クラブは地区大会の事業引き受けには限界がある。各RCは地区にノーと言えればよい。ロータリーに「ノーは無い」とも言われるが、ノーと言えればよい。

最後に今の地区は、いいっ子ぶりをし過ぎている。RIから何か言われても、ハイ、ごもっとも、分かりましたと。各RCは正直過ぎる。これを地区から受けたらRCはどうなるのかを考えない。Think・考えよう、というテーマが掲げられているが、われわれRC会員が考えなくてはならない。RCにアッセンブリーやフォーラムを導入して、将来の在り方を探らねばならない。

#### (会報委員会からのお願い)

卓話予定者(会員、またはゲスト卓話者には紹介者からお願いを)は、出来れば、**卓話抄録**(手書きでコピーでも可、WordやExcelならば、CDなどにして頂くと尚有難い)や、**卓話要旨**(専門用語のある、レジュメ等)を出して頂きたく、お願いします。また、その際、**資料**などがあれば、配布出来ないものは、コピーしますので、提供をお願いします。